

令和5年度一関市観光審議会

日時：令和5年7月20日(木) 午前10時～11時30分

場所：一関保健センター 1階 会議室1

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 一関市観光振興計画の推進について

(2) その他

4 その他

5 閉 会

配布資料

- ・資料No. 1 令和4年度事業実施状況
- ・資料No. 2 一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）の目標指標と実績
- ・一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）概要版

一関市観光審議会委員名簿

任期: 令和4年4月1日～令和6年3月31日

(敬称略)

氏名	所属団体	役職	備考	出欠
伊藤利幸				出席
伊藤美枝子				出席
昆野洋子				欠席
佐々木賢治		会長		出席
坂田真樹子			任期 令和5年4月1日から	出席
丹野麻琴				出席
千葉敏則				出席
月居康男				欠席
船山賢治		副会長		出席
松本数馬				出席

(五十音順)

一関市

氏名	役職	氏名	役職
今野薫	一関市商工労働部長	渡辺恭弘	一関市商工労働部 観光物産課長
小野寺孝良	一関市商工労働部観光物産課 課長補佐兼観光係長	佐々木浩二	一関市商工労働部観光物産課 課長補佐兼物産係長
永澤恵里	一関市商工労働部観光物産課 物産係主査	上野幸子	一関市商工労働部観光物産課 観光係主査

○一関市観光審議会条例

平成17年10月31日

条例第221号

改正 平成31年3月15日条例第11号

(設置)

第1条 一関市の観光事業に関する必要な事項を調査及び審議するため、一関市観光審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査及び審議を行い、その結果を市長に答申する。

- (1) 観光振興の基本計画に関すること。
- (2) 観光資源の保護に関すること。
- (3) 観光資源の開発及び整備に関すること。
- (4) 観光資源の利用の増進に関すること。
- (5) その他観光に関すること。

(組織)

第3条 審議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げるもののうちから市長が委嘱する。

- (1) 知識経験を有する者
- (2) 観光関係団体に属する者
- (3) 関係行政機関の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選とする。
- 3 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職

務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 審議会は、委員の半数以上の委員が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、商工労働部観光物産課において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、平成17年11月1日から施行する。

附 則 (平成31年3月15日条例第11号)

この条例は、平成31年4月1日から施行する。

令和4年度事業実施状況

資料No.1

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和4年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
<p>1 平泉との連携強化による「いちのせき」の発信</p>	<p>①平泉と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信 ②骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興 ③観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>(1)世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ周遊観光ルートの定着と公共交通機関の利用促進 (2)一関・平泉地域の特産品やもち食文化など特徴的な観光資源を活用した誘客事業の創出 (3)骨寺荘園遺跡など平泉とのゆかりを生かした観光誘客の推進 (4)一般社団法人世界遺産平泉・一関DMOや観光関連事業者などとの連携による観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>○観光地間二次交通整備事業費補助金 【事業概要】 観光客の周遊化を図るため、平泉駅から狛鼻溪間及び一ノ関駅から須川温泉間のバス運行事業に係る経費に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金交付件数 2件 ・平泉駅－狛鼻溪間 1日3往復 補助金 4,400,000円 運行期間 4月29日～11月6日 利用者数 1,130人 (令和元年度 4,321人 ※1日4往復) ・一ノ関駅－須川温泉間 4,094,247円 運行期間 6月18日～10月31日 利用者数 3,109人</p>	<p>【成果・効果】 ・観光客の円滑な移動手段（利便性）を確保し、周遊観光を促進させ、滞在時間や交流人口の拡大を図った。 ・利用者は、令和3年度と比較し、平泉・げいび溪線は593人、須川温泉線は684人増加しており、コロナ禍以降減少していた観光客の利用状況は回復傾向にある。 【課題】 ・特に平泉・げいび溪線においては、現状の利用人数の場合、費用対効果が見合わない。 ・一方で、赤字路線であり、市からの補助金がなくなればバス運行を継続することができなくなる。 【今後の方向性】 継続実施だが、運行形態含め、補助対象事業者の再検討と補助金額の見直しを行う。</p>
			<p>○世界遺産連携推進実行委員会負担金 【事業概要】 世界遺産を活用した一層の誘客促進を図ることを目的に事業を実施する世界遺産連携推進実行委員会に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 1,500,000円 ・主な事業 世界遺産平泉エリア魅力向上・周遊促進事業 トライアルツアー参加者数 15人 世界遺産平泉文化創造発信事業 周遊謎解きキャンペーン実施</p>	<p>【成果・効果】 一関、平泉、奥州エリアへの誘客を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業への参加者数が少なかった。 【課題】 参加者を増やすため、首都圏や海外向けの情報発信が必要である。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・構成団体とともに首都圏や海外向けの情報発信を行う。</p>
			<p>○骨寺村荘園遺跡保全活用事業費 【事業概要】 骨寺村荘園遺跡の普及啓発及び伝統的な小区画水田や土水路等の保全活用に係る経費 【実施状況】 小区画水田保全管理運営業務委託など 1,370,838円</p>	<p>【成果・効果】 リーフレットによる市内外への情報発信や小区画水田の田植え体験交流会などの開催を通じ、骨寺村荘園遺跡の価値発信や保全意識醸成に繋がった。 【課題】 体験交流会などへの参加者確保を図るため、骨寺村荘園交流館を核とした情報発信と遺跡価値の普及浸透を継続して行う必要がある。 【今後の方向性】 継続実施。</p>
			<p>○食と農の観光PR事業 【事業概要】 一関の伝統的食文化である「もち食文化」の普及・継承と「もち食」を活用した観光振興を図った。 【実施状況】 ・事業費 5,322,998円 ・一関もち食推進会議の開催（年11回） ・もち本膳体験授業の実施（猿沢小6年10人、厳美小6年15人） ・もちマイスター検定及びフォローアップ研修の実施 ・一関の多彩なもち料理のデータベース化 ・基礎データ把握のための実態調査（アンケート調査）</p>	<p>【成果・効果】 ・特色ある「もち食文化」を観光資源として磨き上げ、市内外への周知に取り組んだことで、テレビや雑誌などメディアからの取材が増加してきている。 ・継続的に取り組んでいるもち関連事業を通じて、当地方の「もち食文化」の伝承・普及が図られている。 【課題】 これまでの取り組みによりメディアからの取材が増えているものの、「もちのまち」を視覚的に訴えるシンボルがない。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・一関市もち食PRキャラクター及び一関市もち食PRロゴマークを募集、選定し、市内外の幅広い世代に対して「もち食文化」の魅力を発信する。 ・「もち食」を活用した事業を展開し、「もちの聖地いちのせき」の認知拡大を目指す。</p>
			<p>○一関地方物産振興協会負担金 【事業概要】 一関地方の物産振興を図ることを目的に地場特産品生産者等で組織する団体の活動に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 54,000円 ・主な事業 「第26回黄金の国陶芸展」の開催（千厩酒のくら交流施設） 一関地方物産振興協会のホームページ制作</p>	<p>【成果・効果】 物産事業者で構成する両磐地区唯一の団体であり、一関市観光協会や世界遺産平泉・一関市DMOとの連携により、物産の振興が推し進められた。 【課題】 ・会員の減少（脱会）が進んでいる。 ・親睦団体的意味合いが強く、独自の大きな事業が組みにくい。 ・事務局事務を市が担っており、連絡調整（情報提供）は頻繁に行うことができているが、民間感覚での会員の自主的な活動（独自事業、イベント参加）が薄れてきている。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・一関市観光協会や世界遺産平泉・一関市DMOとの連携のあり方についての検討を行う必要がある。 ・会員増につながる事業についての検討を行う必要がある。</p>

令和4年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和4年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
2 観光資源の活用と情報発信の充実	①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化	(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化 (5)体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致 (6)須川・真湯・祭時地区、室根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進 (7)観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化	<p>○一関春まつり開催事業補助金</p> <p>【事業概要】 一関地方の観光シーズンの幕開けイベントとして位置付け、誘客の促進を図り、潤いのある街づくりに資することを目的に一関春まつり実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金交付件数 1件 補助金 1,220,000円 開催日 4月29日 	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光シーズンの幕開けイベントとして定着している。 開催にあたっては、市内各地域のイベントなども含めてPRを実施し、観光客の誘客に繋がった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 更なる誘客を図る必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施だが、補助対象事業者へPR手段なども含め、事業内容の検討を依頼する。
			<p>○夏まつり開催事業費</p> <p>【事業概要】 夏まつりの開催により、地域の活性化と交流人口や関係人口の拡大を図った。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一関夏まつり 開催負担金 8,400,000円 開催日 8月5日から8月7日まで 花泉まつり 開催負担金 2,000,000円 開催日 11月3日 千厩夏まつり 開催負担金 635,000円（開催準備に係る分で負担金支出） 開催日 7月30日（中止） むろね夏まつり 開催負担金 0円 開催日 7月31日（中止） かわさき夏まつり 開催負担金 1,162,150円 開催日 8月16日 	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が見送られた夏まつりもあったが、感染症対策を講じながら3年ぶりに開催した夏まつりもあり、地域の活性化や交流人口の拡大に繋がった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一関市内各地域の夏まつりを一体的に宣伝し、各まつりの開催による相乗効果を図ることが必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施。
			<p>○一ノ関駅前イルミネーション実行委員会負担金</p> <p>【事業概要】 一ノ関駅周辺の活性化に資することを目的に事業を実施する一ノ関駅前イルミネーション実行委員会に対する負担金</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 負担金 400,000円 期間 12月1日から1月9日まで 会場 一ノ関駅前広場 	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一ノ関駅周辺の街頭装飾等により、一関市全体のイメージアップと、地域活性化に繋がっている。 当該事業は、世界遺産平泉の玄関口を彩る冬の風物詩として定着している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅周辺の賑わいを取り戻す事業として、JR利用者を中心に好評を得ているが、各種イベントの同時開催など、イルミネーションの利活用策の検討・実施が必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅周辺や商店街の活性化、にぎわいの創出に向け、継続実施とする。
			<p>○一関・平泉バルーンフェスティバル事業費</p> <p>【事業概要】 一関・平泉バルーンフェスティバル実行委員会負担金 バルーンフェスティバル開催に係るその他経費</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 負担金 10,000,000円 その他経費 263,280円 開催日 10月14日から10月16日まで 会場 一関水辺プラザほか 観客者数 85,000人（平成30年度 120,000人） 	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催を通じて全国に情報発信するとともに、にぎわいの創出、地域経済の活性化に繋がった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱気球は天候に左右されるため、観光資源として確立するうえで、係留体験搭乗会以外のコンテンツ（熱気球教室など）の充実が必要となる。 競技飛行以外時間帯の集客の工夫が課題である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施することにより、滞在型観光の誘客を促進するほか、一時的な集客イベントだけでなく、宿泊利用や交流人口の拡大により地域経済の活性化を図る。
			<p>○地ビールフェスティバル開催補助金</p> <p>【事業概要】 全国の地ビールを活用したイベントで一関のPRを行い、関連産業の発展と地域振興、活性化を図ることを目的に全国地ビールフェスティバル実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金交付件数 1件 補助金 850,000円 開催日 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、開催を令和5年度へ延期した。令和4年度は開催準備に要した経費に対し補助した。 参考 令和元年度 来場者数 33,055人 ビール販売数量 12,728リットル イベント会場内使用金額 218,328,275円 交通費・宿泊費消費額 567,289,910円 	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実行委員会の継続的な取り組みにより、全国各地からの来場者が多く、市内の交通・宿泊・飲食・観光など、地域経済へ好循環をもたらすイベントとして定着している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年々会場が手狭になってきているものの、地ビールの聖地として、現在の会場は切り離せない状況であり、配置に苦慮している。 屋外開催のイベントで天候等に影響を受けるため、収支の均衡を安定的に確保する必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出店ブースの配置を工夫するなどし、現在の会場での開催を継続することで中心市街地の活性化に寄与する。 イベントのPRに力を入れることで、収入額の増大を図る。

令和4年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和4年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
2 観光資源の活用と情報発信の充実	①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化	(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化 (5)体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致 (6)須川・真湯・祭時地区、室根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進 (7)観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化	<p>○全国もちフェスティバル開催補助金</p> <p>【事業概要】 「もち食文化」を全国に向けて情報発信し、交流人口の拡大、地域経済の活性化を図ることを目的に全国もちフェスティバル実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金交付件数 1件 補助金 1,700,000円 開催日 10月14日から11月30日まで 参加店 25店舗 <p>・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、市内を周遊するスタンプラリーイベントを開催した。</p> <p>・参考 平成30年度 来場者数 24,366人</p>	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特産品を活用したスタンプラリーイベントを展開することで、飲食店への集客及び街なかの周遊促進に繋がった。 もち食のPRと販売を促進し、食と観光産業の連携を図った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集客イベントを開催する目的、手段、効果について検討し、イベントのあり方を見直す必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施。 一関・平泉地域のにぎわいを創出するとともに、「もち食文化」の魅力を国内外に向けて発信し、当地域のPRを行い関連産業の発展と地域の振興及び活性化を図ることを目的に開催する。 フードフェスとしてだけでなく、一関のもち食文化の体験を提供するイベントとして開催する。
			<p>○大東大原水かけ祭り保存会事業費補助金</p> <p>【事業概要】 伝統行事「一関市・大東大原水かけ祭り」の運営、管理、保存を目的に一関市・大東大原水かけ祭り保存会が実施する事業に対し補助する。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止（交付件数0件、0円） 開催日 毎年2月11日 	<p>【成果・効果】</p> <p>伝統行事としての継続を重んじ、関係者の神事のみとした。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化により、地元の従事者、参加者が減少してきている。 反対に増え続ける体験参加者の受け入れ態勢の確保が必要。 <p>【今後の方向性】</p> <p>継続実施。</p>
			<p>○水晶あんどん祭り事業費補助金</p> <p>【事業概要】 伝統行事「摺沢水晶あんどん祭り」の運営を目的に水晶あんどん祭り実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金交付件数 1件 補助金 360,000円 参加者数 延べ 200人（令和元年度 300人） 人出数 延べ2,000人（令和元年度 3,800人） 開催日 8月13日から8月15日まで 	<p>【成果・効果】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により参加者、人出ともに少なかったが、3年ぶりの開催に、関係者及び訪問者はあんどんを眺め楽しみ、にぎわいの回復に繋がった。</p> <p>【課題】</p> <p>あんどん製作には相応の技術と手間が必要で、少子高齢化の進行により参加者の減少が心配される。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>継続実施。</p>
			<p>○せんまやあたご光の広場事業費補助金</p> <p>【事業概要】 商店街への集客及び地域づくりの活性化を図ることを目的に、せんまやあたご光の広場実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金交付件数 1件 補助金 50,000円 期間 12月27日から1月15日まで 会場 愛宕児童公園 公園内に電飾約7,000個を設置し、地域住民などに楽しむ場を提供した。 	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電飾した愛宕児童公園は、千厩商店街の西側にあり、普段から子どもたちや家族連れでにぎわう公園であることから、多くの人が楽しんだ。 地域住民の交流が図られ、商店街のにぎわいや地域活性化に繋がっている。 <p>【課題】</p> <p>作業人数の減少が心配される。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>継続実施。</p>
			<p>○唐梅館絵巻実行委員会補助金</p> <p>【事業概要】 約400年前の軍議を再現しながら地域活性化を図ることを目的に唐梅館絵巻実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金交付件数 1件 補助金 5,500,000円 開催日 9月25日 来場者数 9,500人（令和元年度 16,500人） 	<p>【成果・効果】</p> <p>魅力ある総大将役の選定などにより誘客を図ったが、来場者は、9,500人で前回（令和元年度）と比較して7,000人減少した。</p> <p>【課題】</p> <p>来場者を増やすため、イベント内容を評価しながら改善が必要。</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施。 関係者と協議しながら、イベント内容を検討する。
			<p>○むろね産業文化祭実行委員会負担金</p> <p>【事業概要】 室根地域の産業、交通防災、保健、文化活動などの成果が一堂に会するむろね産業文化祭の開催に対する負担金</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 負担金 659,000円 主な事業 友好都市等物産展、一関市物産展、芸術文化展 来場者数 2,000人（令和元年度 4,000人） 	<p>【成果・効果】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念され、PR等を控えたため、人出が少なかった。3年ぶりの開催に来場者は物産展や芸術文化活動などを楽しみ、にぎわいの回復に繋がった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業分野の参加が農業のほか期待できない。 農業部門についても高齢化により継続が危ぶまれている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施。 産業の分野が参加が少なく、芸術文化祭の色合いが強い。産業分野の今以上の参加は見込めないため、芸術文化の祭典として充実を図っていく。

令和4年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和4年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
2 観光資源の活用と情報発信の充実	①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化	(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化	<p>○藤沢野焼祭開催負担金</p> <p>【事業概要】 縄文時代の焼成方法「野焼き」を用いた土と炎の祭典「藤沢野焼祭」の開催に対する負担金</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負担金 1,000,000円 ・開催日 8月13日から8月14日 ・参加者数 2,800人（令和元年度 8,000人） ・参加作品数 390点（令和元年度 785点） 	<p>【成果・効果】 新型コロナウイルス感染症の影響により参加者が少なかったものの、3年ぶりの開催に関係者や来場者から「とてもよいお祭りだった。来年もまた開催してほしい」との声が多く寄せられた。</p> <p>【課題】 少子高齢化により、自治会の参加や協賛金の減少が著しく、祭りの存続が懸念される。</p> <p>【今後の方向性】 継続実施。</p>
			<p>○食と農の観光PR事業（再掲）</p> <p>【事業概要】 一関の伝統的食文化である「もち食文化」の普及・継承と「もち食」を活用した観光振興を図った。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費 5,322,998円 ・一関もち食推進会議の開催（年11回） ・もち本膳体験授業の実施（猿沢小6年10人、厳美小6年15人） ・もちマイスター検定及びフォローアップ研修の実施 ・一関の多彩なもち料理のデータベース化 ・基礎データ把握のための実態調査（アンケート調査） 	<p>【成果・効果】 ・特色ある「もち食文化」を観光資源として磨き上げ、市内外への周知に取り組んだことで、テレビや雑誌などメディアからの取材が増加してきている。</p> <p>・継続的に取り組んでいるもち関連事業を通じて、当地方の「もち食文化」の伝承・普及が図られている。</p> <p>【課題】 これまでの取り組みによりメディアからの取材が増えているものの、「もちのまち」を視覚的に訴えるシンボルがない。</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施。 ・一関市もち食PRキャラクター及び一関市もち食PRロゴマークを募集、選定し、市内外の幅広い世代に対して「もち食文化」の魅力を発信する。 ・「もち食」を活用した事業を展開し、「もちの聖地いちのせき」の認知拡大を目指す。
			<p>○観光振興事業費</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光パンフレット等印刷 ・各種宣伝広告 ・観光ホームページ <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光パンフレット等印刷 3,095,620円 ・各種宣伝広告（看板等への広告掲載）2,449,144円 ・仙台圏等観光情報発信業務委託 2,200,000円 ・観光ホームページシステム保守業務等委託 300,000円 ほか 	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを県内外の観光施設等へ配架し、当市をPRしている。 ・仙台圏等観光情報発信業務では、観光プロモーション動画を2本制作して、YouTube動画公開を行い、市の観光PR、来訪のきっかけづくりに繋がった。 <p>【課題】 パンフレットやHP掲載の観光情報内容の更新、本格的に再開し始めているインバウンド向けパンフレットの作成が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 継続実施。</p>
			<p>○栗駒山山開き・登山事業費</p> <p>【事業概要】 栗駒山への登山客の誘致を目的に山開き登山ツアー等を実施した。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗駒山山開き登山ツアー 委託料 575,680円（委託先：一般社団法人一関市観光協会） 開催日 5月14日から5月15日まで ・岩手日日山開き特集号への広告 	<p>【成果・効果】 5月第3日曜日の栗駒山山開きに合わせた登山ツアーの実施により、誘客に繋げることができた。</p> <p>【課題】 ガイド養成など、受け入れ環境の整備が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 アウトドア人気により、受け入れ態勢、環境の整備に努める。</p>

令和4年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和4年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
2 観光資源の活用と情報発信の充実	①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化	(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化	○伊達な広域観光推進協議会負担金 【事業概要】 地域や県境を越えた連携を強め、観光地の魅力向上と観光需要の拡大を図ることを目的に事業を実施する伊達な広域観光推進協議会に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 750,000円 ・主な事業 ・教育旅行誘致事業 (パンフレット更新、旅行代理店・学校等へのセールス活動) ・周遊促進事業(レンタカープラン販売) ・広報・PR事業(ホームページ運営等)	【成果・効果】 ・6市4町の行政、商工及び観光関係団体が参画し、広域的な観光客の誘致宣伝事業や観光客の受入事業など、より実効性のある連携施策を展開している。 ・北海道、関東、中部、関西を中心とする全国の旅行代理店や学校に対し、訪問セールスやモニターツアーの実施等により、当エリアの教育旅行素材や補助制度をPRし、教育旅行誘致に繋がった。 【課題】 登米市及び栗原市が加入しておらず、多面的かつ連続性のある事業の展開(例：大人数の農泊の受入など)が困難になっている。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・教育旅行に関する誘致の効果が期待できる。
			○いわて観光キャンペーン協議会負担金 【事業概要】 観光キャンペーンの実施や取り組みを通じ、観光に関わる事業者や県・自治体が相互に連携し、豊富な観光資源を全国に向けて情報発信し、交流人口の拡大を図り、観光産業の振興と持続的な観光地づくりを通じた地域活性化を促進することを目的とする負担金 【実施状況】 ・負担金 410,000円 ・主な事業 ・北東北三県大型観光キャンペーン(7/1～9/30)の展開 ・大型観光キャンペーンの好機を誘客に生かすため、関係機関等と連携した情報発信や周遊誘客促進の取組、冬季間の旅行商品造成支援の実施などによる宣伝誘客事業の展開 ・盛岡市のニューヨーク・タイムズ紙掲載を契機としたプロモーション強化	【成果・効果】 官民一体となった「オール岩手」で誘客拡大を図るため、JR東日本との共同による観光キャンペーンのほか各種事業を実施することで、当市の観光資源等の情報発信に寄与している。 【課題】 県全体への波及効果が十分に表れていないことから、引き続き観光客の周遊を促進する必要がある。 【今後の方向性】 今後も加入継続することで、当市へのさらなる誘客の拡大を図る。
			○岩手県観光協会負担金 【事業概要】 岩手県の観光宣伝紹介、観光客の誘致促進、国際観光の推進等により観光振興を図り、地域活性化と県民生活の向上発展に寄与することを目的とする協会への負担金 【実施状況】 ・負担金 1,557,000円 ・主な事業 ・観光情報の発信(いわて旅の地図更新・増刷・配布ほか) ・国内観光客の誘致促進(東京・大阪・名古屋での観光客誘致説明会開催、エージェント招待対応ほか) ・国際観光の推進(海外商談会へのオンライン参加ほか) ・受入態勢の整備(いわて観光おもてなしセンター設置対応ほか)	【成果・効果】 岩手県や県内全市町村、観光関係団体等が連携して岩手県観光の魅力をPRした。 【課題】 ・観光庁の宿泊旅行統計調査による令和4年の本県の延べ宿泊者数(速報値)は、前年を上回ったものの、コロナ禍前の令和元年と比較すると大きく下回る状況となっている。 ・いわて花巻空港国際航空便の運休継続等の影響により、本県の外国人延べ宿泊者数は前年を上回ったものの、令和元年と比較すると1割に満たない結果となったことから、さらなる誘客拡大の取組が必要である。 【今後の方向性】 県、市町村、各観光協会や観光関係団体と連携し、本県の魅力ある観光資源の宣伝と観光客の拡大に取り組んでおり、本県観光産業の中心的役割を担っている団体であることから、今後も加入継続することで当市へのさらなる誘客の拡大が期待できる。

令和4年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和4年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
3 受け入れ態勢の整備	①おもてなし意識の醸成とガイドの確保 ②観光施設、公共施設等の受入れ環境の整備 ③観光ルートの整備	(1)研修会等によるおもてなし意識の醸成	○観光振興事業費（おもてなしセミナー開催） 【事業概要】 一関観光協会、一関商工会議所とともに、観光事業者等を対象としたセミナーを実施した。 【実施状況】 ・講師謝礼 39,000円 ・開催日 2月21日	【成果・効果】 ・戦略的な経営改善に取り組める人材の育成と従業員も含めた施設全体のレベルアップを目的に実施した。 ・観光関係者57名が参加し、参考になったという意見が多数であった。 【課題】 地域全体でおもてなしの機運醸成を図る必要がある。 【今後の方向性】 継続実施。
		(2)観光ガイドの養成や組織の育成支援等による受入態勢の充実	○観光ガイド事業費 【事業概要】 外国人に対する観光案内業務委託と一ノ関駅構内における観光案内業務委託を実施した。 【実施状況】 ・外国人に対する観光案内業務委託 委託料 4,693,410円 ・一ノ関駅構内における観光案内業務委託 委託料 965,250円 開設期間 4月23日から11月6日	【成果・効果】 ・岩手県南の玄関口としてきめ細やかなサービスを提供することで、観光客の満足度アップに繋がった。 ・英語・中国語を話せるスタッフを観光案内所に配置することで、インバウンド誘客にも繋がっている。 【課題】 ・外国人に対する観光案内業務委託 インバウンド回復のための情報発信を積極的に行うことが必要である。 ・一ノ関駅構内における観光案内業務委託 アフターコロナに向け、外国人観光客増加への体制整備が必要である。 【今後の方向性】 継続実施。
		(3)統一した案内標識の導入やWi-Fi環境の拡大等による受入環境の整備	○観光ボランティアガイド団体補助金 【事業概要】 観光ボランティアガイドの会（いわいの里ガイドの会、蔵サポーターの会、観光交流ネット千厩）の運営に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金交付件数 3件 327,000円 ・内訳 いわいの里ガイドの会 237,000円 蔵サポーターの会 45,000円 観光交流ネット千厩 45,000円	【成果・効果】 各種イベントへの協力や出前講座での講演等、関係団体との連携及び研究や自主研修、ツアー企画等の実施により、新たな観光資源の発掘や取組に繋がった。 【課題】 引き続きガイドを養成し、受け入れ態勢の強化を図ることが必要である。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・ボランティアガイド団体への新規加入者の増加を目指す。
		(4)スケールメリットを生かした観光ルートの整備・向上	○観光地間二次交通整備事業費補助金（再掲） 【事業概要】 観光客の周遊化を図るため、平泉駅から狛鼻溪間及び一ノ関駅から須川温泉間のバス運行事業に係る経費に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金交付件数 2件 ・平泉駅－狛鼻溪間 1日3往復 補助金 4,400,000円 運行期間 4月29日～11月6日 利用者数 1,130人（令和元年度 4,321人 ※1日4往復） ・一ノ関駅－須川温泉間 4,094,247円 運行期間 6月18日～10月31日 利用者数 3,109人	【成果・効果】 ・観光客の円滑な移動手段（利便性）を確保し、周遊観光を促進させ、滞在時間や交流人口の拡大を図った。 ・利用者は、令和3年度と比較し、平泉・げいび溪線は593人、須川温泉線は684人増加しており、コロナ禍以降減少していた観光客の利用状況は回復傾向にある。 【課題】 ・特に平泉・げいび溪線においては、現状の利用人数の場合、費用対効果が見合わない。 ・一方で、赤字路線であり、市からの補助金がなくなればバス運行を継続することができなくなる。 【今後の方向性】 継続実施だが、運行形態含め、補助対象事業者の再検討と補助金額の見直しを行う。
		(5)二次交通網の構築	○世界遺産連携推進実行委員会負担金（再掲） 【事業概要】 世界遺産を活用した一層の誘客促進を図ることを目的に事業を実施する世界遺産連携推進実行委員会に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 1,500,000円 ・主な事業 世界遺産平泉エリア魅力向上・周遊促進事業 トライアルツアー参加者数 15人 世界遺産平泉文化創造発信事業 周遊謎解きキャンペーン実施	【成果・効果】 一関、平泉、奥州エリアへの誘客を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業への参加者数が少なかった。 【課題】 参加者を増やすため、首都圏や海外向けの情報発信が必要である。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・構成団体とともに首都圏や海外向けの情報発信を行う。

令和4年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和4年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
4 広域連携の推進	①近隣市町村や関係市町村との連携 ②地域資源の相互利用	(1)県境を越えた近隣市町村との連携の強化 (2)姉妹都市、友好都市との交流の推進 (3)広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進	<p>○広域連携推進事業費</p> <p>【事業概要】 湯沢市、栗原市、東成瀬村と連携し広域での観光振興を図るため、観光パンフレットの作成、観光施設スタンプラリー、栗駒山麓観光写真コンクール、紅葉時期の渋滞対策等を実施した。</p> <p>【実施状況】 ・栗駒山麓周遊スタンプラリー 開催日 9月17日から10月31日まで ・栗駒山麓観光写真コンクール 応募期間 12月1日から12月31日まで</p>	<p>【成果・効果】 栗駒山にまたがる4市村で連携し事業を実施することで、周遊型観光の促進に繋がっている。</p> <p>【課題】 連携事業の取り組みについて見直しを図っていく。</p> <p>【今後の方向性】 継続実施。</p>
			<p>○伊達な広域観光推進協議会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】 地域や県境を越えた連携を強め、観光地の魅力向上と観光需要の拡大を図ることを目的に事業を実施する伊達な広域観光推進協議会に対する負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 750,000円 ・主な事業 ・教育旅行誘致事業 (パンフレット更新、旅行代理店・学校等へのセールス活動) ・周遊促進事業（レンタカープラン販売） ・広報・PR事業（ホームページ運営等）</p>	<p>【成果・効果】 ・6市4町の行政、商工及び観光関係団体が参画し、広域的な観光客の誘致宣伝事業や観光客の受入事業など、より実効性のある連携施策を展開している。</p> <p>・北海道、関東、中部、関西を中心とする全国の旅行代理店や学校に対し、訪問セールスやモニターツアーの実施等により、当エリアの教育旅行素材や補助制度をPRし、教育旅行誘致に繋がった。</p> <p>【課題】 登米市及び栗原市が加入しておらず、多面的かつ連続性のある事業の展開（例：大人数の農泊の受入など）が困難になっている。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・教育旅行に関する誘致の効果が期待できる。</p>
			<p>○いわて観光キャンペーン協議会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】 観光キャンペーンの実施や取り組みを通じ、観光に関わる事業者や県・自治体が相互に連携し、豊富な観光資源を全国に向けて情報発信し、交流人口の拡大を図り、観光産業の振興と持続的な観光地づくりを通じた地域活性化を促進することを目的とする負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 410,000円 ・主な事業 ・北東北三県大型観光キャンペーン（7/1～9/30）の展開 ・大型観光キャンペーンの好機を誘客に生かすため、関係機関等と連携した情報発信や周遊誘客促進の取組、冬季間の旅行商品造成支援の実施などによる宣伝誘客事業の展開 ・盛岡市のニューヨーク・タイムズ紙掲載を契機としたプロモーション強化</p>	<p>【成果・効果】 官民一体となった「オール岩手」で誘客拡大を図るため、JR東日本との共同による観光キャンペーンのほか各種事業を実施することで、当市の観光資源等の情報発信に寄与している。</p> <p>【課題】 県全体への波及効果が十分に表れていないことから、引き続き観光客の周遊を促進する必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 今後も加入継続することで、当市へのさらなる誘客の拡大を図る。</p>
<p>○岩手県観光協会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】 岩手県の観光宣伝紹介、観光客の誘致促進、国際観光の推進等により観光振興を図り、地域活性化と県民生活の向上発展に寄与することを目的とする協会への負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 1,557,000円 ・主な事業 ・観光情報の発信（いわて旅の地図更新・増刷・配布ほか） ・国内観光客の誘致促進（東京・大阪・名古屋での観光客誘致説明会開催、エージェント招待対応ほか） ・国際観光の推進（海外商談会へのオンライン参加ほか） ・受入態勢の整備（いわて観光おもてなしセンター設置対応ほか）</p>	<p>【成果・効果】 岩手県や県内全市町村、観光関係団体等が連携して岩手県観光の魅力をもPRした。</p> <p>【課題】 ・観光庁の宿泊旅行統計調査による令和4年の本県の延べ宿泊者数（速報値）は、前年を上回ったものの、コロナ禍前の令和元年と比較すると大きく下回る状況となっている。 ・いわて花巻空港国際航空便の運休継続等の影響により、本県の外国人延べ宿泊者数は前年を上回ったものの、令和元年と比較すると1割に満たない結果となったことから、さらなる誘客拡大の取組が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 県、市町村、各観光協会や観光関係団体と連携し、本県の魅力ある観光資源の宣伝と観光客の拡大に取り組んでおり、本県観光産業の中心的役割を担っている団体であることから、今後も加入継続することで当市へのさらなる誘客の拡大が期待できる。</p>			

令和4年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和4年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
4 広域連携の推進	①近隣市町村や関係市町村との連携 ②地域資源の相互利用	(1)県境を越えた近隣市町村との連携の強化 (2)姉妹都市、友好都市との交流の推進 (3)広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進	○一関の物産と観光展開催負担金 【事業概要】 地場特産品生産者団体の活動支援とともに、首都圏等における物産と観光展の開催に係る負担金 【実施状況】 ・負担金 4,392,000円 ・主な事業 「としま商人まつり」「ふるさと祭り東京」等の物産・観光PRに係る出店 各地域プロジェクトの出店状況 一関 9回 花泉 1回 大東 0回 千厩 0回 東山 1回 室根 0回 川崎 1回 藤沢 1回 開催数 計13回 出店者数 述べ58団体 売上 約15,000千円	【成果・効果】 一関市の特産品・農産物の宣伝や販売並びに観光PRを首都圏等を行うことにより、一関市のイメージアップや交流人口の拡大、事業者の収入確保、販路拡大に繋がった。 【課題】 ・合併前の旧市町村（各地域）と開催都市との交流が継続中であり、開催のあり方（事業の統廃合等）を見直すことが困難である（交流を止めるわけにはいかない）。 ・事務局事務を市が担っており、事務局のあり方や事業内容について引き続き検討が必要である。 【今後の方向性】 ・地域おこし協力隊を活用した事務局体制を検討する。 ・全市的な物産展のあり方についての検討する。
			○ドラゴンレール大船渡線観光活用推進事業費 【事業概要】 JR大船渡線を活用した臨時列車の運行による観光客の誘客事業を実施した。 【実施状況】 ・委託料 4,510,000円 ・主な事業 尻鼻溪でのローカルガストロノミーディナーツアー 参加者数 20人 第16回せんまやひなまつり」に合わせたツアー 参加者数 46人	【成果・効果】 令和4年度新規事業。事業実施によりJR大船渡線の利用者の増加と、沿線地域の観光コンテンツの造成に繋がった。 【課題】 天候不良等による列車運休時の対応や、首都圏等からの更なる誘客が必要である。 【今後の方向性】 継続実施。
5 新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策	①新たな観光資源の開拓と観光需要への対応 ②安全安心な受け入れ態勢の推進 ③ワーケーション・ブレジャーの推進 ④インバウンドの推進 ⑤持続可能な観光の推進	(1)観光需要の把握と分析による既存資源の活用と新しい資源の創出 (2)安全安心な受け入れ態勢の確立 (3)一関型ワーケーション・ブレジャーの構築 (4)インバウンド推進のための受入環境整備や情報発信の強化 (5)持続可能な観光の実現に向けた取組の推進	○ワーケーション推進事業費 【事業概要】 地域おこし協力隊制度を活用し、ワーケーションの取組を通じた観光情報の発信と交流人口、関係人口の拡大を図った。 【実施状況】 ・委託料 4,699,994円 ・主な事業 モニターツアーの実施等	【成果・効果】 地元事業者から聞き取りした課題を解決するモニターツアーを一関市観光協会と共同実施し、交流人口、関係人口の拡大に繋がった。 【課題】 令和5年度が地域おこし協力隊の任期最終年度となることから、令和6年度以降の事業のあり方について検討が必要である。 【今後の方向性】 継続実施。
			○インバウンド推進事業費 【事業概要】 インバウンドの再開を見据え、観光PR動画を活用した情報発信や看板の整備事業を実施した。 【実施状況】 ・動画編集（多言語化）業務委託 605,000円 ・観光案内看板整備事業費補助金 112,000円（1事業者）	【成果・効果】 インバウンド再開後、旅行地として訪日しようとしている外国人から、一関市が選ばれるよう、受け入れ態勢を整備した。 【課題】 観光案内看板整備事業費補助金の交付件数が当初の想定よりも少なかったことから、関係団体と連携して事業者に対しての周知を強化していく必要がある。 【今後の方向性】 継続実施。
			○食と農の観光PR事業（再掲） 【事業概要】 一関の伝統的食文化である「もち食文化」の普及・継承と「もち食」を活用した観光振興を図った。 【実施状況】 ・事業費 5,322,998円 ・一関もち食推進会議の開催（年11回） ・もち本膳体験授業の実施（猿沢小6年10人、厳美小6年15人） ・もちマイスター検定及びフォローアップ研修の実施 ・一関の多彩なもち料理のデータベース化 ・基礎データ把握のための実態調査（アンケート調査）	【成果・効果】 ・特色ある「もち食文化」を観光資源として磨き上げ、市内外への周知に取り組んだことで、テレビや雑誌などメディアからの取材が増加してきている。 ・継続的に取り組んでいるもち関連事業を通じて、当地方の「もち食文化」の伝承・普及が図られている。 【課題】 これまでの取り組みによりメディアからの取材が増えているものの、「もちのまち」を視覚的に訴えるシンボルがない。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・一関市もち食PRキャラクター及び一関市もち食PRロゴマークを募集、選定し、市内外の幅広い世代に対して「もち食文化」の魅力を発信する。 ・「もち食」を活用した事業を展開し、「もちの聖地いちのせき」の認知拡大を目指す。

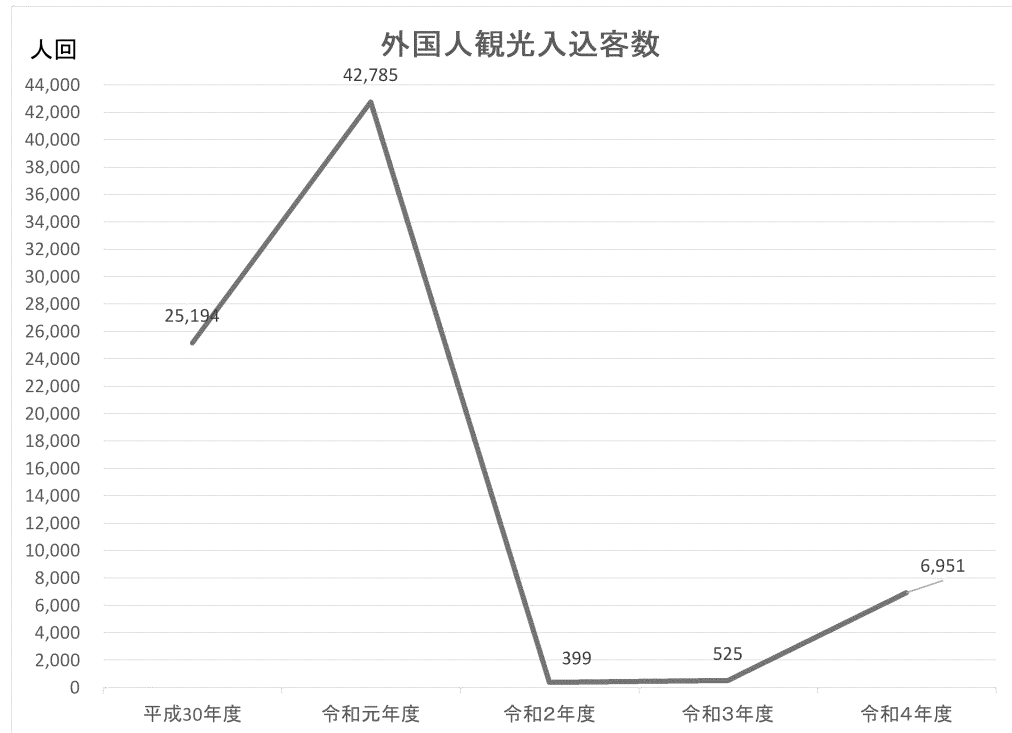
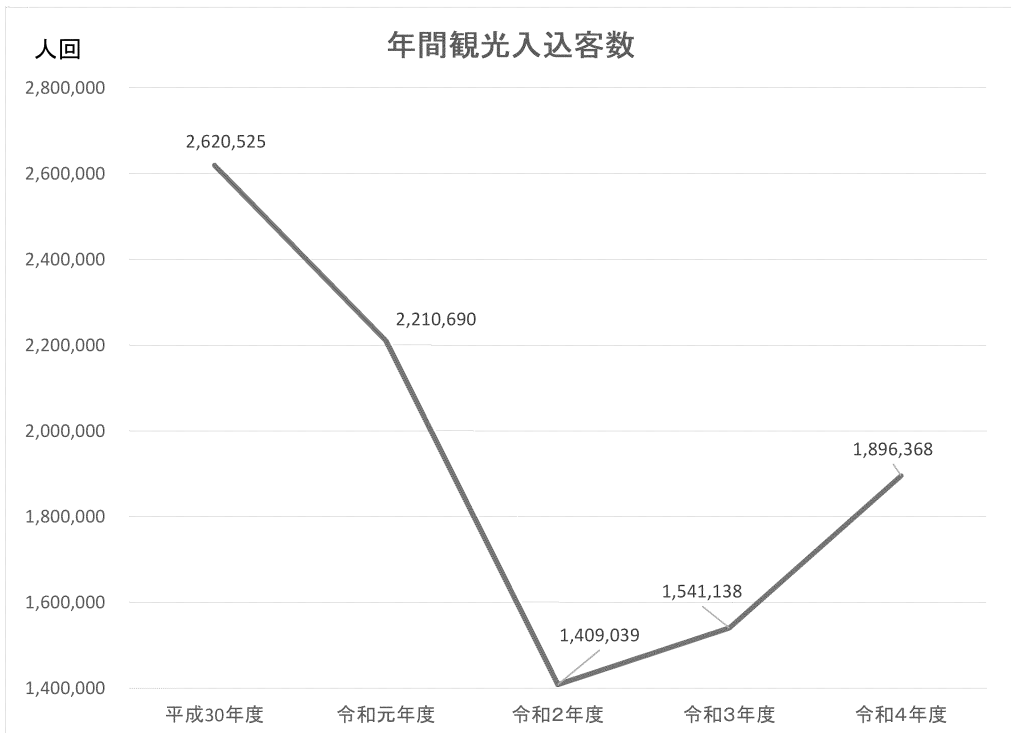
一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）の目標指標と実績

資料No.2

**本計画の
目標指標**

令和元年度（2019年度）
 ・年間観光入込客数 約221万人回
 ・外国人観光入込客数 42,700人回
 ※参考指標 観光消費額 124億円

令和8年度（2026年度）目標値
 ・年間観光入込客数 221万人回
 ・外国人観光入込客数 42,700人回
 ※参考指標 観光消費額 124億円



	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年間観光入込客数	2,620,525	2,210,690	1,409,039	1,541,138	1,896,368
		伸び率	伸び率	伸び率	伸び率
		-15.6%	-36.3%	9.4%	23.0%

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
外国人観光入込客数	25,194	42,785	399	525	6,951
		伸び率	伸び率	伸び率	伸び率
		69.8%	-99.1%	31.6%	1224.0%

■各地域の重点取り組み

一関地域

- 世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ周遊観光ルートの定着と公共交通機関の利用促進
- 地元ガイドによる歴史の小道などの街散策
- 東京都豊島区、福島県三春町、宮城県仙台市などでの物産と観光展の開催
- 栗駒山（須川岳）、真湯・祭時地区への誘客と栗駒山麓周辺市村との連携の強化
- 一関温泉郷や各種イベントの情報発信

千厩地域

- 千厩酒のくら交流施設への誘客促進
- 夫婦石の情報発信のための事業実施
- 東京都世田谷区での物産と観光展の開催

川崎地域

- 東京都町田市、神奈川県川崎市での物産と観光展の開催
- 道の駅かわさきを活用した情報発信
- 農家民泊の受け入れ態勢の整備

花泉地域

- 花と泉の公園の情報発信
- 花や自然に特化したファミリー向けイベントの企画実施
- 東京都江東区での物産と観光展の開催

東山地域

- 尻鼻溪への誘客と回遊対策の強化
- 東京都品川区での物産と観光展の開催

藤沢地域

- 館ヶ森収穫祭などのイベント開催・情報発信による館ヶ森エリアへの誘客促進
- 花や動物に特化したファミリー向けイベントの企画実施
- 東京都中央区での物産と観光展の開催
- 農家民泊の受け入れ態勢の整備

大東地域

- 地域内の景勝地や民俗資料館、芦東山記念館の情報発信
- 建設を進めている国道343号渋民バイパス「道の駅」を活用した誘客促進
- 神奈川県藤沢市での物産と観光展の開催

室根地域

- 室根山周辺で開催されるアウトドアスポーツの推進
- 室根山観光の情報発信と「森は海の恋人」植樹祭に係る気仙沼市との連携支援
- 埼玉県吉川市での物産と観光展の開催
- 和歌山県田辺市、和歌山県新宮市との熊野交流推進と室根神社特別大祭開催に係る連携の強化

■計画の推進

市民、観光関係団体等、DMO及び市が共に連携し、観光をめぐる環境の変化に対応した有効な取り組みを行っていくことが必要です。
このため、それぞれが担う役割を明確にし、本計画が着実に推進されるよう取り組みます。

■観光振興に関する施策の評価

年度ごとに一関市観光審議会において観光振興に関する施策の評価を行いながら実効性を高めていきます。

■観光統計の整備等

観光産業に携わる民間、市、団体などが適切な施策や事業を実施するため、各種観光統計の整備等の実施など、現状をより正確に把握するよう努めます。

■市民・観光関係団体等・DMO・市の役割

【市民】

- ・観光客に感動を呼び、リピーターとなっていただけるようおもてなしの心を持ってやさしい里へ観光客を迎え入れるため、住む場所、観光地の清掃活動や観光ガイド、各種イベントへの参加
- ・SNSなどを活用した情報発信による本市の魅力アップにつながる身近な活動

【DMO】

- ・行政や観光関係事業者をはじめとする様々な産業の事業者や地域住民等の多様な関係者を調整
- ・地域全体での戦略的な観光地づくりと地域内経済循環の推進を主導

【観光関係団体等】

- ・観光客のニーズに対応した商品造成やイベントの企画
- ・地域内経済循環を高める視点を持って、各種サービスの向上やおもてなし力の向上、情報発信
- ・インバウンドを呼び込むためのWi-Fi環境の整備促進やキャッシュレス化、多言語への対応

【市】

- ・観光事業者、観光分野以外の関連事業者、市民等との密接な連携のもと、総合産業としての観光産業の振興策の策定
- ・地域資源を生かした観光産業の振興

一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）概要版

発行：一関市 編集：一関市商工労働部観光物産課 〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号
TEL 0191-21-2111 (代) FAX 0191-31-3037
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>



基本理念

恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里 いちのせき

本計画の 目標指標

令和元年度（2019年度）
 ・年間観光入込客数 約221万人回
 ・外国人観光入込客数 42,700人回
 ※参考指標 観光消費額 124億円

令和8年度（2026年度）目標値
 ・年間観光入込客数 221万人回
 ・外国人観光入込客数 42,700人回
 ※参考指標 観光消費額 124億円



指標の考え方
 新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度を基準とし、令和8年度までに基準年度への回復を目指すものです。

一関市観光振興計画

（令和4年度～令和8年度）

【一関市の観光の課題】

❶ 平泉との連携強化による一関ブランドの発信

- SNS等、各種情報発信ツールを活用した取組
- 効果的かつ効率的な事業の展開
- DMOを中心とした一関・平泉エリアにおける観光地域づくりの推進

❷ 観光資源の活用と情報提供の充実

- 各地域の祭りやイベントを活用した観光客の誘致
- パンフレットの見直し、集約、内容の精査と効果的な方策
- 観光施設の在り方の検討、見直し
- 関係者等が連携した適時適切な情報の発信
- 「もちのブランド化」構築のための一体的な機運の醸成
- 一関三大フェスティバル（全国もちフェスティバル、全国地ビールフェスティバル、一関・平泉バルーンフェスティバル）等、特徴あるイベントの充実、進展
- 体験型観光の構築と磨き上げ

❸ 観光に関する受け入れ態勢の整備

- おもてなし意識の醸成
- ボランティアガイドの養成・確保
- 多言語化への対応
- 二次交通網の維持、整備

❹ 広域連携の推進

- 近隣市町村等との連携による観光振興事業の実施

❺ インバウンド誘客の推進

- 多言語化や広域連携の強化のほか、「農泊 食文化海外発信地域」の計画に基づいた取組の推進

基本方針

1 平泉との連携強化による「いちのせき」の発信

2 観光資源の活用と情報発信の充実

3 受け入れ態勢の整備

4 広域連携の推進

5 新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策

観光振興戦略

- ①平泉と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信
- ②骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興
- ③観光地域づくりと地域内経済循環の推進

- ①地域資源の掘り起こしと活用
- ②観光情報の充実
- ③ニューツーリズムの推進
- ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用
- ⑤誘客の推進
- ⑥外国人に対する情報発信の強化

- ①おもてなし意識の醸成とガイドの確保
- ②観光施設、公共施設等の受け入れ環境の整備
- ③観光ルートの整備
- ④二次交通網の構築

- ①近隣市町村や関係市町村との連携
- ②地域資源の相互利用

- ①新たな観光資源の開拓と観光需要への対応
- ②安全安心な受け入れ態勢の推進
- ③ワーケーション・プレジャーの推進
- ④インバウンドの推進
- ⑤持続可能な観光の推進

重点的取り組み

- (1) 世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ周遊観光ルートの定着と公共交通機関の利用促進
- (2) 一関・平泉地域の特産品やもち食文化など特徴的な観光資源を活用した誘客事業の創出
- (3) 骨寺村荘園遺跡など平泉とのゆかりを生かした観光誘客の推進
- (4) 一般社団法人世界遺産平泉・一関DMOや観光関連事業者などとの連携による観光地域づくりと地域内経済循環の推進

- (1) 観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出
- (2) 「食・農・観光」の連携による魅力の発信
- (3) 四季を通じた特色あるイベントの充実
- (4) 観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化
- (5) 体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致
- (6) 須川・真湯・祭時地区、室根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進
- (7) 観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化

- (1) 研修会等によるおもてなし意識の醸成
- (2) 観光ガイドの養成や組織の育成支援等による受け入れ態勢の充実
- (3) 統一した案内標識の導入やWi-Fi環境の拡大等による受け入れ環境の整備
- (4) スケールメリットを生かした観光ルートの整備・向上
- (5) 二次交通網の構築

- (1) 県境を越えた近隣市町村との連携の強化
- (2) 姉妹都市、友好都市との交流の推進
- (3) 広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進

- (1) 観光需要の把握と分析による既存資源の活用と新しい資源の創出
- (2) 安全安心な受け入れ態勢の確立
- (3) 一関型ワーケーション・プレジャーの構築
- (4) インバウンド推進のための受け入れ環境整備や情報発信の強化
- (5) 持続可能な観光の実現に向けた取組の推進